

お知らせ

2019年1月22日  
株式会社インターネット総合研究所

**IRIと名古屋大学の共同研究成果が『Nature』研究誌(電子版)に掲載**  
～量子コンピュータの実現へ向けて大きく前進、中日新聞、日本経済新聞に掲載～

当社(IRI)と名古屋大学の共同研究成果が科学誌「ネイチャーパートナージャーナル・クアンタムインフォメーション」(電子版)に掲載されましたのでお知らせいたします。

第1回藤原洋数理科学賞(2012年9月30日)の大賞受賞者でもある、名古屋大学 小澤正直名誉教授による今回の論文は、微視的物理学法則の根本原理である、ハイゼンベルグの不確定性原理の運動量と位置の計測結果の誤差をより厳密に数学的に解明し、約100年ぶりに物理学法則における測定誤差の定義を根本的に改良した理論の構築に関するものです。

この研究成果は、量子コンピュータの実現に大きく近づくものであり、小澤正直先生と当社との共同研究の成果として今回発表に至りました。

本共同研究成果は、2019年1月18日中日新聞社会面、2019年1月20日日本経済新聞サイエンス面に紹介されました。

※原論文での当社社名掲載部分

Acknowledgements The author acknowledges the support of the JSPS KAKENHI, No. 26247016 and No. 17K19970, and of the IRI-NU collaboration.

■株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長 藤原 洋 のコメント

このたびの英国『Nature』電子版に掲載された論文は、量子コンピュータ設計の基本原理に関わる発見であると考えております。ニッポンは、もっと数理科学研究にスポットライトを当てるべきだと思います。目先の出口指向主義を改め、急がば回れで、地道な研究開発活動を行うことが重要で、そうでないと、結局二番煎じでしかない成果しか生まれないと思います。日本オリジナルの新たな「量子コンピュータの開発」に貢献したいと考えております。

■リンク

○論文掲載ページ(ネイチャーパートナージャーナル・クアンタムインフォメーション)

<https://www.nature.com/articles/s41534-018-0113-z>

○名古屋大学リリース

[http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload\\_images/20190121\\_i.pdf](http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/researchinfo/upload_images/20190121_i.pdf)